



いつも笑顔で元気な塚本昭子さん 敬老大会で得意のフラダンスを披露してくれました



おがさわら

議会だより

第 126 号

議案審議	2
一般質問	4
委員会報告	7
編集後記	8
議員レポート	9

台風15号の接近に伴い、その対応により会議の準備に十分な時間が確保できなかったため、9月13日から9月20日までの8日間を休会としました。また例年、前年の決算の認定は9月の第3回定例会で特別委員会を設置し審議していますが、本年は12月の第4回定例会に実施する予定です。

本定例会では議案等11件が提出されすべて全会一致で可決しました。

村政に対する一般質問は、9月21日、5人の議員が10件の質問を出しました。(⇒4ページ)

補正予算

一般会計 2億366万4000円の増額

台風9号、15号による被害の復旧に 1738万2000円

おもな内容

母島消防車庫シャッター、外壁の改修	485万8000円
母島沖港仮設荷捌所の屋根補修	339万8000円
村道の清掃	245万2000円
母島リレーセンター門扉の取替	183万8000円

その他の使いみち

防災行政無線設備改修実施設計委託 1072万5000円

マイナンバーカードに旧姓を併記できるようにするためのシステム改修
. 334万8000円

橋梁補修工事 311万5000円

財政調整基金など、基金の積み増し 1億2189万円

特別会計への繰出し 5754万5000円



台風被害の復旧にかかる経費は、国や東京都から支援などはあるのか。
(一木議員)



すべてではないが、国の特別交付税の中で申請する予定。(財政課長)

報 告

出資法人の経営状況について

小笠原村は、村が出資している「小笠原ラム・リキュール（株）」の、経営状況を説明する書類を作成し、毎年議会に前年の報告書を提出します。この報告書の内容は、小笠原村公式サイト、議会事務局「会議録」からご覧いただくことができます。



島民からも愛される地酒とあるが、もっと購入しやすい工夫を。(安藤議員)



色々な販売方法を模索している。飲食店向けに10リットル単位で量り売りをしている。(母島支所長)



数年前に購入しておいたものを飲んでみたらとてもおいしかった。貯蔵スペースの確保など課題もあるだろうが、寝かせてから販売するなどしてみたらどうか。(安藤議員)



ご指摘の件もふまえ、総合的な販売戦略を考えていきたい。(母島支所長)

条例改正

職員の給与に関する条例

非常勤の職員の報酬及び費用弁償に関する条例

東京都の最低賃金引き上げにあわせ、職員の給料月額、非常勤職員の報酬額の一部を改めました。

進学助成基金条例

杉田建設興業(株)からの寄付金により創設された、進学助成基金を元手に、内地で受験する際の往復定期船代と宿泊代の一部を補助する、進学助成事業を実施しています。この進学助成基金への積み立てに、他の方からの寄付も受け入れられるように条例文を改めました。

安藤重行議員



国民健康保険制度等について

安藤議員 ①制度改正に関し、6月以降の現況と、都の情報提供や指示について伺う。②平成30年4月からの保険税額改定に間に合うのか。

村民課長 ①国と都の調整ののち、来年1月に各区市町村に納付金及び標準保険税率が示される予定。事前に示される試算値をもとに国民健康保険税の改正案を作成し、12月議会で示したい。②試算値と確定値が大きく異なることはないものと考えてシミュレーションを行い、新年度から対応したい。

社会保険未加入対策について

安藤議員 ①入札契約適正化法の改正で、事業者は法定福利費が含まれた内訳書の提出が義務づけられたが、村は確認しているか。②作業員には厚生年金や健康保険への未加入者が多いようだ。一人一人の社会保険加入状況把握の早期実施を。③国は、改善しない業者の入札の参加資格名簿からの除外や建設業許認可、通報措置まで求めている。村は社会保険の監督庁ではないが、発注者として地域事業者への働きかけが必要では。

財政課長 ①入札時に工事費の内訳書の提出を求め、従事者の法定福利費を含めた現場管理費として確認している。②現状、一人一人の状況把握までは至っていない。未加入者対策として、元請業者は社会保険等加入を入札参加条件とし、下請業者は施工体制台帳で状況が確認できるよう調整中。③事業を行うのに必要な条件として加入促進を事前に行うので、除外や通報にはならないと考える。

清水良一議員



農業の振興と地産地消の推進

清水議員 ①農地として父島の農業センターや都有地の活用を。②就農へのハードルを下げてみては。③都とも連携し、粘り強い農地の確保を。④地産地消、自給率向上への取り組みは。⑤村長の考えは。

産業観光課長 強化や規模の拡大に意欲的な農業者を積極支援。③借り入れや購入希望者に遊休農地や売却希望地の情報提供や仲介をしている。都とも情報を共有。④生産・流通量増大が重要。農地確保最優先。

村長 ⑤農業振興という大きな枠組みの中で施策を進める。

今年度の小笠原エネルギービジョン

清水議員 ①補正予算の村有施設のエネルギー対策費の用途と、村有施設以外の取り組みは。②事業の知見を村民に還元する方策は。③扇浦交流センターの売電状況は。④太陽光発電設備の状況は。⑤再生可能エネルギー導入促進を。

環境課長 ①国の制度を活用し温室効果ガスのより効果的な排出抑制を調査・研究。基本的に村有施設の検討・調査だ。②勉強会等は補助金の用途外。検討結果等は広報したい。⑤実現には時間がかかる。

総務課長 ③3月開始見込みで申請したが、未接続。④奥村交流センターの不良パネルは今年6月に無償交換済み。

村民課長 ④地域福祉センターは正常に動作している。

医療課長 ④複合施設は調査を踏まえ今後の対応を検討。

教育課長 ④母島小・中学校は改善が見込めず工事は中止。

杉田一男議員



訪島事業について

杉田議員 ①来年の再開に向けた今の考え方は。②返還 50 周年の節目に、ぜひ再開に向け頑張ってもらいたい。③硫黄島の濁水の現状は。④体験学習ができなかった今年度の中学 2 年生たちに、改めて機会を与えられないか。

村長 ①硫黄島訪島事業は当村の重要な施策。池田議長とともに国会議員を訪問したほか、予算の獲得と実務的な要望を各方面にしてきた。皆さんとともに実現に向け努力する。②本当に一生懸命頑張りたい。④過去、上陸できなかった生徒は、希望があればその後の訪島時に行ってもらっている。事業の再開後、何らかの形で要望に沿いたい。

総務課長 ③今年 8 月 1 日で濁水態勢を解除したとのこと。

教育長 ④趣旨を校長たちに伝え、可能な限り実現できるよう考えてもらう。

避難所について

杉田議員 ①先日の台風でも福祉センターが避難場所となった。奥村交流センターは使えないのか。土砂災害危険区域の問題か。②村長の考えは。

総務課長 ①法的な根拠はないが、国土交通省が隣接する砂防河川に心配があり、現在基礎的な調査をしている。終了後、その結果も見ながら避難所のあり方を再検討したい。

村長 ②村の態勢等から、台風の避難所は福祉センターと扇浦交流センターを基本とし、台風の性格等収集した情報により、奥村交流センターの使用も考える。奥村の砂防河川の調査結果で対処も変わってくるが、きちんと使えるよう対処するので安心してほしい。

稲垣勇議員



農業振興策について

稲垣議員 ①蝙蝠谷農業団地の進捗状況と今後の対応は。②現在、母島内に硫黄島旧島民の第一世代はいるのか。③内地の酒造会社から島レモンの引き合いを受け、生産拡大のため農家から早期供用開始の要望があるが、どう考えるか。④今後、生産拡大で蝙蝠谷の農業用水が不足する心配はないか。⑤農業用水の老朽化したソーラー式ポンプの整備を。⑥母島は住宅不足で内地からの就農希望者を受け入れられない。どう考えているのか。⑦農業者に限らず、新定住者のためも含め、村独自で住宅を確保する考えは。

産業観光課長 ①暫定的に都が小笠原農業振興研究会へのパッションフルーツの生産委託を開始。暫定利用後は残りの区画も順次整備し貸付予定。旧島民の応募がなければ農業者への貸付を考える。平成 30 年 10 月貸付開始へ準備中。②いるとは思いますが、実際入植するとは考えにくい。③あくまで暫定利用であり、島レモンのような作付けの長いものは考えにくい。正式貸付後の利用は農業者の判断による。④全区画の入植を想定して整備しており、現在のところ水量は確保できている。⑤農業用水を含め、実際に農業ができる形にしてから都と賃貸借契約し、貸付を行う。⑥農業振興は農協が事業主体。住宅整備で都と農協の協議が進むよう、村からもお願いしていく。

村長 ⑦定住人口 3,000 人の目標を達成するためにも住宅問題は避けて通れないが、他の離島のような住宅提供を含めた I ターン策までには至っていない。営農者の住宅には制度上の問題の壁もある。

一木重夫議員



障害児への対応について

一木議員 島っ子の障害児への対応について、①現状と課題は。②基本方針を伺う。

村民課長 ①保護者から十分な聞き取りの上、各機関と連携しているが、村としてできる範囲での支援となっている。

医療課長 ①重度身体障害児に週2回の理学療法を実施。専門施設のような対応は困難。

教育課長 ①父・母両島の小学校に特別支援学級の固定級を開設。制度上担任1名で様々な児童に対応せねばならず、学校で配慮・工夫等している。

村長 ②現状では限界もあるが、できるだけ

のことはする。

教育課長 ②一人一人の教育的ニーズを把握、持てる力を高め困難の改善・克服を目指す。

小笠原村への大型家電等の配達について

一木議員 大手運送会社の規格変更で大型家電が運べなくなり、多くの販売店が島への発送を取りやめるか高額送料となった。＊ユニバーサルサービス導入を要望できないか。

村長 運送会社や他の離島の状況を把握し、各方面と情報交換しながら対応を検討する。＊ユニバーサルサービス・・・全国一律、妥当な料金で安定的に供給されるサービス。郵便料金など。

都契約の共同企業体結成義務撤廃について

一木議員 都の入札制度改革で、本土の不良・不適格業者の安値受注での品質低下や島内事業者の受注減少等が懸念される。再考を求めべき。

村長 今回は試行と聞いた。中小企業への影響を配慮して適用範囲が縮小されたものもある。当村にも少なからず影響があろう。いろいろ意見交換しながら対応していきたい。

池田 望議長出張報告



- 6月28日 小笠原海運株式会社と硫黄島訪島事業について情報・意見交換（同行者 村長）
新藤義孝衆議院議員を訪問し、村政課題等について情報・意見交換（同行者 村長）
- 6月29日 第91回小笠原諸島振興開発審議会
- 7月4日 町村議会広報クリニック（同行者 議員2名）
- 7月26日 総務省へ基地交付金に関する要望（同行者 村長）
防衛省地方協力局へ特定防衛施設周辺整備調整交付金に関する要望（同行者 村長）
東京都町村会・東京都町村議会議長会合同会議
東京都予算要望結団式
- 7月27日 第6回小笠原航空路協議会
平成30年度東京都予算編成に対する要望活動
- 7月31日 国土交通省国土政策局長を訪問し、村政課題等について情報・意見交換（同行者 村長）

小笠原諸島返還50周年記念事業

広報宣伝事業について詳細な説明がありました。

小笠原の自然だけでなく歴史・文化も観光の資源として紹介する「色いろ楽しい小笠原」をコンセプトに企画されました。返還50周年にちなみ50色の絵の具で小笠原が表現されています。



返還20周年の時は、地下鉄東京メトロなどでほぼ無料で中吊り広告をやっ
てもらえた経緯がある。今回もぜひ実施を。(杉田委員)



可能な範囲で東京都にもお願いしていく。(総務課副参事)



50色の絵の具について、各色のネーミングは島民からアイデアを募集する
のか。(清水副委員長)



現時点でほぼ決まっている。父島由来、母島由来、また歴史・文化・自然か
らの名づけなど、偏りが出ないように作業を進めている。(総務課副参事)



米国から返還されて50年。戦争があってこの節目の年がある。歴史的な経緯
の取扱い、また海外への発信についての考えは。(清水副委員長、安藤委員)



50色の絵の具の中に、硫黄島にちなんだ色名がある。また父島・母島の戦跡
を取り上げたリーフレットも作成する予定。英文表記での広報も協議してい
きたい。(総務課副参事)

貨物船の動向

株式会社共勝丸から貨物船の新造に向けた動きについて村へ報告があり、その内
容について説明がありました。

説明によると、共勝丸は9月、造船所が決定し、今後本契約を交わした後設計作
業及び造船を開始し、平成30年11月下旬には新造船が就航する予定です。

この報告を受け、委員会開催時に毎回村からの説明を求めていたこの議題につい
ては、本委員会で終了とすることを決定しました。

その他の議題

- 世界自然遺産(継続)
- 平成30年度小笠原諸島振興開発事業概算要求について

硫黄島調査特別委員会 9月22日

杉田一男委員長

安藤重行副委員長

硫黄島での訓練や遺骨収容事業、訪島事業に関する要望活動等について報告がありました。

小笠原航空路開設推進特別委員会 9月22日

一木重夫委員長

清水良一副委員長

航空路に関する村長の陳情活動の報告のほか、7月に7年ぶりに開催された、航空路開設を検討するにあたり関係者間の合意形成を図る場として設置された東京都が主体となっている協議会「小笠原航空路協議会」の会議について執行部から報告がありました

会議の内容、資料等は、東京都総務局行政部のホームページに掲載されています。

⇒<http://www.soumu.metro.tokyo.jp/05gyousei/06koukuuro.html>

問 検討中の3つの航空路案のうち、父島の洲崎地区に設置する場合の、海域へはみ出す滑走路部分について説明を。(清水副委員長)

答 自然環境への影響を配慮し、栈橋方式にしたいと東京都に伝えている。結論はまだ出ていないと思われる。(企画政策室長)

問 風の流れが変わることで生ずる集落への影響について、調査・分析は行っているか(安藤委員)

答 過去に東京都が実施した調査の中に、集落への影響を分析できるような結果もあると推測している。(企画政策室長)

編集後記

議会だよりの編集作業中、衆議院議員選挙が実施されました。選挙運動最終日の土曜日、街頭での選挙運動が終わった午後8時過ぎ、東京3区の2人の候補者の写真がfacebookで見ました。その写真には、2人の候補者がお互いに手を取り合って両腕を上げ、健闘を称え合っていました。選挙期間中、お互いを意識して舌戦を繰り広げた両候補。しかし、選挙運動が終わればお互いが手を取り合う仲に戻ります。

両候補とも選挙区と比例で当選しました。新たに再選された2人の衆議院議員には、国と小笠原諸島のためにより一層活躍して頂くことを期待しています。

(一木重夫)

★議会だよりの編集委員

一木重夫 安藤重行★

議会で iPad ? ～ペーパーレス化に向けた勉強会～

議会だより編集委員 一木重夫

10月5日、議会のペーパーレス化を推進している企業を招聘して、勉強会を開催しました。議会のペーパーレス化は、iPadなどのタブレット端末を利用して、毎議会配付される厚さ10-15cmにもなる大量の印刷物をなくそうという試み。今、次々と全国の区市町村議会がペーパーレス化を導入しています。単に用紙、印刷、保管にかかるコストを削減するだけでなく、印刷物が削減されることで、印刷時間、文書の修正・差替え・紛失対応、FAX送信、郵送等の労務が改善され、結果として業務効率化が進み、区市町村職員や議員の事務仕事

量が軽減されるメリットがあります。一方、タブレット端末の操作に不安を感じたり、A3用紙等の比較的大きな用紙の資料ではタブレット端末では見にくかったり、毎月少なからずの運用費用がかかる等のデメリットもあります。そのため、メリットとデメリットの双方を体験するため、各議員が一台ずつタブレット端末のiPadを手にして、その有効性・有用性を確かめてみました。スマートフォンを持たない最年長の稲垣議員は「操作に慣れてしまえばどうってことない」との感想。引き続き導入に向けた検討を重ねていくことになりました。



書類を見開きで、実際にページをめくっている感覚で扱うことができます。手書き風にメモを残すことも、しおりを挟むこともできます。



タブレット端末の中身は本棚風。必要な書類を取り出すことができます。検索もできるため膨大な数の書類から目的のページを素早く探すこともできます。

東京諸島「利島村」「新島村」「式根島」「神津島村」視察報告① ～自然再生エネルギーへの取組み～

安藤 重行

10月1日(日)～4日(水)にかけて視察を実施。異なる島独自の生活環境で生きていくことが、行政の考え方、物の捉え方を変えていった歴史が感じられた視察でした。それぞれの島が抱えている問題の中で、当村と同じように津波などの災害を想定した取組みをしっかりと捉えていて、先進地として名乗りを上げた島々。化石燃料発電からの脱却が取り上げられており、CO₂削減に貢献する取組みも見据えている。そのような観点から、今回は自然再生エネルギー問題に取り組んでいる島々を報告します。

災害時にどうやって電力の確保をしているのか。発電所が低地にあるため、津波被害では壊滅的打撃を受けて電力の喪失の恐れが高い。電源車の配備などは対処的な方法であるため、また、同時に本土も打撃を受けた場合は、支援の手はかなり遅くなることを想定した取組みをしていかなければならず、しっかりとした対策を講じて、島

民の生命維持を確保していくことが大事になってきます。

新島村では、NEDO（※注1）の電力系統出力変動対応技術研究開発事業に応募し、この事業をとおして災害時の電力確保を探るとの思いから、新島村の電力系統を実証地域として、最適な設備形成・運用手段を確立するためにこの事業へ取り組む。

取り組む要因となったのは、①島内事業者への発注工事量の増加が見込まれる。（実際には30億円増加）②村の基本計画「新エネルギー・地球温暖化防止計画」に合致する事業であった。③国の目標指針2030年に再生可能エネルギー導入率22～24%をクリアー、新島村は25%（MAX需要時に対する理論値）となる。

④事業関係者の来島による経済効果に期待。（実際には3000名を超えている関係者が来島）⑤世界でも類を見ない最先端技術開発研究事業であることから、内外に「新島村」を売り出すチャンスと考えた。

（海外からのオファーも増えている）

現状では見事な先読みで平成26年度～30年度の5年間で予算規模は195億円(年間40億円)、村持出はほとんどない。しかし、簡単な道のりではないこともある。例えば自然公園法の壁。普通地域限定での検討、景勝阻害要因の厳しいガイドライン等が設定されている。太陽光発電・風力



新島村の太陽光発電システムを視察。この蓄電池が高額！



再生可能エネルギー実証事業の取り組みについてレクチャーを受ける（新島村）

発電や大型蓄電池設備・気象観測設備なども設置する。

この他に東京電力との話し合いなど事業をクリアーするために、村にプロジェクトチームを結成、当時の担当者は部署を移動してもそのまま、担当としてかかわって一貫性を保っている。

神津島村では、新島村同様に災害時の電力確保対策として、国の「低酸素型まちづくり」補助事業に応募。7800万円の100%補助。村役場職員からの提案があり村長の判断で取組み決定する。都環境局に再生可能エネルギーのアドバイスをいただく。村有の施設の屋上等に設置、電気自動車の導入と充電施設の設置も行い、プロポーザル方式(※注2)による「神津島村公共施設太陽光発電設備等設置工事」を実施した。

利島村は地域特性を生かした海水落下発電を利用するなど、それぞれ村長の決断

で、取組むべき課題にしっかりと目を向け活動を開始している。細部の資料や説明もあり、今後当村においてもいろいろな補助事業も見据えた取組みを考え、エネルギーの諸問題は、大きな課題の一つとして避けて通れない。

このような視察を活かして、村での取組みに議員として、早急に何をすべきかを考えています。次回は②農協問題などを報告します。

※注1 NEDO…国立研究開発法人新エネルギー産業技術総合開発機構の略称

※注2 プロポーザル方式…公共施設を利用して効果的なCO₂排出量削減を実施し、蓄電池の設置や電気自動車などを組み合わせることで、ピークシフト効果や災害時にも対応できる再生エネルギーを推進する島づくりを目的とする。

平成29年第4回定例会会議日程表（予定）

月 日	開始時間	会議名	内容
12月12日（火）	午前10時	本会議	会期の決定、一般質問等
12月13日（水）	午前 9時	総務委員会	
	午前11時	硫黄島調査特別委員会	
	午後 2時	小笠原航空路開設推進特別委員会	
	午後3時30分	本会議	議案審議、決特設置
12月19日（火）	午前 9時	平成28年度決算特別委員会	
12月20日（水）	午前 9時	平成28年度決算特別委員会	
	午後 2時	本会議	議案審議、決算採決等

本会議、各委員会は傍聴できます。開会5分前まで傍聴受付を行っています。
またテレビ11チャンネルで中継放送がご覧になれます。



会議での発言内容など詳しく知りたい時は、会議録をご覧ください。
○村役場議会事務局 ○地域福祉センター図書室 ○母島支所
○母島図書室で閲覧できます。

また、パソコンやスマートフォンなどで見ることもできます。

小笠原村公式サイト→議会事務局→会議録で



訃報

杉田次郎元村議会議員が、去る8月8日逝去されました。
故杉田次郎氏は、昭和62年に初当選され平成3年まで1期4年務められ、村政発展に多大の功績を残されました。
ここに謹んで哀悼の意を表し、心からご冥福をお祈り申し上げます。